



静岡社会健康医学大学院大学

Shizuoka Graduate University of Public Health

2021 大学案内

始まる、
健康を探究する学び。

一步先の、新しいフィールドへ

現場の経験を学びへ。 学びの成果を社会へ。

「社会健康医学」とは、伝統的な公衆衛生学を基盤にゲノム医学や医療ビッグデータ解析などの新しい学術領域を加えることで、社会における人の健康を幅広い視点から考究・社会実装する学問です。社会健康医学を考究し、その学識をもとに国内外の臨床・予防医療や保健・福祉分野で活躍する人材を養成します。

静岡社会健康医学大学院大学 2021年4月開学

Contents

- | | |
|--|-------------------|
| 04 学長予定者メッセージ
基本理念・基本方針・アドミッションポリシー | 12 カリキュラムマップ・時間割 |
| 06 社会健康医学とは
目指す人物像・教育研究制度の特色 | 13 研究の特色 |
| 07 研究科長予定者メッセージ | 14 主な教員紹介 |
| 08 カリキュラム | 16 入試情報 |
| 10 授業科目一覧 | 17 公衆衛生大学院卒業生の生の声 |
| | 18 よくある質問 -FAQ- |

学長予定者メッセージ

ここから、医療が変わり始める。

一人の個人と向き合う治療医学と社会全体を見つめる社会健康医学。この二つが両輪となり、関わり合いながら、健康寿命の延伸に貢献することが世界の医学の新しいスタンダードになりつつある今、我が国では後者について体系的に学び研究を深められる場が不足しています。つまり、先制医療・予防医学とも呼ばれる社会健康医学の知見を世の中に広め、活かすことのできる人材が十分に育っていないのです。こうした状況に加えて、これまでの日常を一変させたコロナ禍で公衆衛生分野に注目が集まる中、いよいよ開学を迎える静岡社会健康医学大学院大学が担う役割は大きいと考えます。

主に超高齢社会に端を発する新たな課題の数々は、医療や福祉の枠を飛び越えて、経済や社会構造にまで影響を及ぼしています。こうした大きな課題に立ち向かうべく、ビッグデータの解析やコホート研究などで導出したエビデンスを基に、未来を健康に生きるための道筋を世の中に示すことも社会健康医学ならば可能です。また、本大学院で取得できる修士号MPH(マスター・オブ・パブリックヘルス)は、医療先進国のアメリカではMD(メディカル・ドクター)やPhD(ドクター・オブ・フィロソフィー)と併記されるプロフェッショナル・ディグリーになっており、いずれ日本でも同様になるはずです。

本大学院は、働きながら学べる環境を整えるだけでなく、学ぶ人の職種を限定していません。その理由は二つです。一つは、実務経験のある人が各分野の専門的な職能や問題意識を持ち寄り、お互いを尊重しながら課題を共有することで、これまでにない発想や解決方法を生み出す機会を創出するため。もう一つは、本大学院での学びの成果をそれぞれの職場に持ち帰り、社会に広く還元してもらうためです。社会健康医学的な考え方が身につくと、データの評価や活用法、目の前の一人に対する問題解決方法も変わるはず。あなたが一歩踏み出すことで、静岡の医療が変わり始めます。そして、日本や世界が変わり始めます。熱意にあふれるあなたの参加をお待ちしています。



静岡社会健康医学大学院大学 学長予定者

宮地 良樹

Yoshiaki Miyachi

1951年静岡市生まれ。京都大学医学部卒。
ミネソタ大学研究員・天理病院皮膚科部長などを経て、
1992年から群馬大学医学部皮膚科教授。
1998年から京都大学大学院皮膚科教授。
2014年から滋賀県立成人病センター(現滋賀県立総合病院)
病院長・京都大学名誉教授。
2020年から社会健康医学大学院大学整備推進顧問。
専門は、皮膚科学/アレルギー学など

基本理念

健康と医療、環境を統合する俯瞰的な視点を機軸とし、健康寿命の延伸に資する教育研究を通じ、国際社会に貢献する「知と人材の拠点」を目指します。



基本方針

POINT 1 最先端の研究

臨床・予防医学の高度化、健康増進・疾病予防対策の最適化に資する最先端の疫学研究、ゲノム医学研究、医療ビッグデータ解析に取り組みます。

POINT 2 高度専門人材の育成

社会健康医学の学識を社会に還元し、医療・保健・福祉の現場でその向上に貢献できるプロフェッショナルな人材を育成します。

POINT 3 成果の社会還元

研究成果の社会実装を積極的に進め、幅広い視点から人類の健康増進や疾病予防に貢献します。

アドミッションポリシー

医療や疾病予防における様々な課題に対し、社会健康医学から立ち向かう高い意欲を持つ方を歓迎します。

- 健康と医療、環境に対する高い関心とリサーチマインドを持っている方(情熱)
- 最新の研究成果や知見を活用して、既存の枠組みにとらわれることなく、新たな視点で課題を見つけ、解決に取り組むことのできる方(発見する力)
- 医療や介護などの専門的知識に裏打ちされた貴重な経験を有し、健康課題に対して、実践的な解決策を提示しようとする方(改革する力)
- 大学院修了後も、地域の医療・介護等の現場において、リーダーとして活躍し、健康寿命の延伸に寄与したいという意欲のある方(実践する力)

臨床・予防医学の高度化、健康増進・疾病予防対策の最適化に資する最先端の疫学研究、ゲノムコホート研究、医療ビッグデータ解析に取り組みます。

社会健康医学とは

世界の先進国では高齢化が進み、我が国ではこの半世紀で平均寿命が20年も延びました。反面、健康寿命とのギャップが10年以上あり、いかにこのギャップを縮めるかが重要な課題になっています。患者個人を対象に病気の根治を目指す治療医学と、人集団を対象に発症や重症化を防ぐ予防医学とが両輪となることが新しいスタンダードとして求められている現代において、後者の役割を担う学問が社会健康医学です。

社会健康医学とは、伝統的な公衆衛生学にゲノム医学や医療ビッグデータ解析などの新しい学術領域を加えることで、社会における人の健康を幅広い視点から考究、社会実装する学問です。本大学院では、公衆衛生専門職教育の国際的水準である基本5領域(疫学、医療統計学、環境健康科学、行動医科学・ヘルスコミュニケーション学、健康管理・政策学)のみならず、関連する学術領域も含めた幅広い学識の修得を目指します。



目指す人物像

社会健康医学の学識を社会に還元し、医療・保健・福祉の向上に貢献できるプロフェッショナルな人材

活躍が想定される職業

医療に直接携わる職種やリサーチコーディネーターなどの専門職、医療・福祉の専門職、企業(製薬企業、バイオ系企業、データサイエンス系企業等)、官公庁などで活躍するスペシャリスト。

取得できる学位

修士(社会健康医学) Master of Public Health (MPH)

本学を含む専門職学位課程は、幅広い分野の学士課程の修了者や社会人を対象に、国際的に通用する高度で専門的な知識・能力を身につけた高度専門職業人の養成を目的とした課程です。一般的な修士課程とは異なり、医師などの6年制大学の卒業生や既に博士号を取得されている方であっても、専門職学位課程に進学され、MPHを取得しています。

教育研究制度の特色

豊富な研究実績を持つ教授陣による少人数制の授業

社会健康医学専門職教育の基本5領域(疫学、医療統計学、環境健康科学、行動医科学・ヘルスコミュニケーション学、健康管理・政策学)や関連する領域において、世界的に活躍している専任教員が講義と研究指導を担当します。また、一部の講義は、その内容に造詣の深い他大学の教員を招聘することで教育内容の充実を図っています。

仕事と学業との両立を可能にする金曜日午後と土曜日を中心とした時間割

必修科目の講義は、1年次前半の金曜日午後(13:00~20:00)と土曜日(10:40~20:00)に開講するため、修了に必要な単位を集中的に取得することができます。1年次後半と2年次は選択科目と特別研究が中心になります。特別研究(修士論文または課題研究)は、指導教員と時間を柔軟に調整しながら進めることができます。

なお、修業年限を3年または4年に延長する長期履修制度もあります(学費総額は修業年限2年の場合と同額)。

オンラインやオンデマンドでの遠隔授業と教育研究指導

講義室で受講することができない場合は、インターネット経由で同時配信される講義を視聴し、質疑応答に加わることができます(オンライン講義)。また、やむを得ない場合には、録画された講義を後から視聴し、教員の質疑に答えるオンデマンド型での受講も可能です(原則として、授業は半分以上の回数を講義室またはオンラインで受講する必要があります)。特別研究においても、適宜、オンラインでの指導を取り入れることで指導教員との綿密なやり取りが可能となり、短期間でレベルの高い成果を導出することができます。

研究科長予定者メッセージ

未来のために、新しい答えを探そう。

例えば、50年前の日本人と今の日本人は、体格も平均寿命も全く違います。その変化によって、認知症やフレイルなど半世紀前までは強く意識することのなかった課題が顕在化してきました。また、このまま温暖化が進めば日本の気候が亜熱帯化し、南国に多い感染症が広まるかもしれません。この様に、私たちが暮らす環境も、私たち自身も変化を続けています。これからの日本人の健康寿命を伸ばすためには、医療にも時代に即した変化が必要です。先人たちが過去の疫学研究やコホート研究で現在の医療の礎を築いてくれた様に、私たちも未来の子どもたちのために、今わからないことを明らかにしていかなければいけません。個人ではなく人集団を対象に、未知の課題について考究する学問が社会健康医学であり、その教育研究の拠点が本大学院です。

目的に合わせた調査方法、正しいデータの読み解き方、効果的な現場の施策への落とし込み方など、各分野のスペシャリストである講師陣が、国内でも珍しい1学年10人という少人数制の強みを活かして徹底的に指導します。また県内外の自治体と連携した医療ビッグデータの活用、各種の疫学研究やゲノムコホート研究をダイナミックに展開。現代社会に求められる知識と技術を養成します。

より良い未来を創ることができるのは、今を生きる私たちだけです。さあ、高い志を持ちながら、一緒に楽しく学びましょう。



研究科長予定者

田原 康玄

Yasuharu Tabara

愛媛大学大学院医学系研究科修了。
同研究科講師などを経て、
2012年から京都大学大学院医学研究科医学専攻准教授。
2019年から静岡県立総合病院リサーチサポートセンター
上席研究員を併任。
2020年から京都大学大学院医学研究科特定教授。
専門は疫学、遺伝学、老年医学、高血圧学

社会健康医学専門職教育の国際基準である5領域を中心としたカリキュラム構成

公衆衛生学科目

現代における保健医療課題の探求や、その解決に向けた科学的思考の礎となる、公衆衛生に関する基礎的な知識を修得するため、公衆衛生専門職教育の国際基準である5領域を学びます。

疫学

社会健康医学に求められる役割を果たすためには、科学的に妥当な方法でデータを収集・分析し、得られた結果を正しく読み解くスキルが必要になります。また、どのような社会医学課題が潜在しているのかを見抜く眼力、その課題解決に必要なエビデンスをどのように導出し、どう介入すべきなのか、仮説を立て検証するための研究を組み立てる能力も欠かすことはできません。このような疫学に関する学識を体系的に学ぶとともに、フィールド調査・研究を含む演習・実習を通じた実践教育から、健康情報や研究の成果を医療や保健、社会福祉の現場に正しく役立てる応用力も養います。

医療統計学

社会健康医学において、統計学は基礎となる学問であり、近年注目されているデータサイエンスの根幹をなすスキルといえます。医療統計学領域の講義では、座学で統計学の基礎を学ぶとともに、データごと、目的ごとに最適な解析法を選択し、得られた結果をどう解釈すれば正しい知見が得られるのか、統計解析の具体的な方法について演習を織り交ぜて実践的に学びます。統計学的に正しい知見を得るための研究デザインやサンプルサイズの設定など、疫学研究・臨床研究の設計方法についても学びます。近年の情報解析技術の進歩によって利活用が進んだ医療ビッグデータの解析・活用方法も含めて学びます。

環境健康科学

自然環境や社会環境など、人間を取り巻く環境が人々の健康に及ぼす影響について系統的に評価する方法を学びます。具体的には、感染症以外の非感染性疾患(non-communicable disease)、特に生活習慣病(糖尿病、肥満、高血圧、慢性腎臓病など)を中心に、生活環境が原因で引き起こされる様々な疾病の発生メカニズムを理解することで、科学的根拠に基づいて疾病リスクを評価し対応する方法を学びます。これからの長寿社会にどのように臨むべきか、修得した学識を基盤に新しい知見を探索し、社会に対して提言や解決策を発信する力を養うことも目指します。

行動医科学・ヘルスコミュニケーション学

適切な健康情報を過不足なく伝え、その理解を促すことで行動変容を惹起する行動医科学・ヘルスコミュニケーション学は、社会健康医学のエビデンスを社会実装するために重要な学識です。行動科学理論に基づいて人間の行動を科学的に理解し、健康増進へと行動変容を促すために、エビデンスに基づいた実効性のある解決策を立案・実行するための知識を学びスキルを身につけます。また、行動変容を促すような施策の立案・実現力の修得も目指します。社会健康医学研究の成果を医療や介護、地域保健等の現場で効果的に還元するためのコミュニケーション技術を身に付けることも目指します。

健康管理・政策学

健診データや診療情報など、医療に関わる様々なデータを駆使した個人・社会レベルでの健康管理の方法論や、データに基づく保健政策の立案について、基本的な考え方を学びます。第一線で活躍されている専門家による講義も併用し、我が国の保険政策を細かく理解するとともに、地域に根ざす医療や保健施策をどのように応用展開すべきか、ともに考える能力を養成します。複雑化する公衆衛生上の課題について科学的に判断し、効果的な提言を立案できる知識や、ヒトを対象とした疫学研究や地域医療データを活用した疫学分析なども、実践的に学ぶことを目標とします。



共通科目

社会健康医学の概要を理解し、専門職として求められる社会的役割を理解するとともに、社会健康医学を学ぶ上で必要となる基礎知識の修得、文献検索法やプレゼンテーションの技術など基本的なスキルの体得を目指します。

ゲノム医学科目

様々な疾患の発症や増悪、薬剤応答性には環境因子とともに遺伝因子が影響しています。遺伝因子とはヒトゲノムの配列の違いであり、ヒトの多様性を生む要因であることから、様々な人種を対象とする社会健康医学において、遺伝因子と疾患との関わりを理解することは欠かすことができません。また、最近のゲノム解析技術の進歩によって、従来の臨床技術では診断できなかった患者の疾患や病態が明らかになったり、ゲノム情報に基づいて治療法や治療薬を選択できるようになってきました。ゲノムを医療に応用する上で欠かせない最新のゲノム医学について体系的に学びます。

発展科目

社会健康医学を修める上で、共通科目、公衆衛生学科目、ゲノム医学科目に加えて学ぶべき科目を配置しています。社会の高齢化にともない重要性が増しつつある高齢者ケアやリハビリテーション、身体的健康とともに重要な精神的健康を保つためのメンタルケアや死生学等の理論、研究手法、社会実装について集約的に学びます。

聴覚言語学

聴覚は言語発達、認知に密接に関連します。聴覚障害に対する適切な介入は小児においてはスムーズな音声言語獲得を可能にし、成人においては「社会参加」への障壁を取り払うことで、質の高い健康寿命の延伸に寄与することが期待できます。社会と繋がる言語獲得の仕組みを神経生理学的に探求するとともに、老人性難聴への対応などについても学びます。

特別研究

最高学府である大学院において、座学で得た知識を活用し最先端研究を行うことは、学識を深める上で欠かすことができません。特別研究では、社会健康医学領域におけるリサーチクエストを設定し、その解決のための研究計画を立案し、計画達成に必要なデータを収集・分析することで、座学で得た知識を深めます。高い専門性と深い学識を有する教員がきめ細かな指導を行い、広く社会に還元できる成果を「修士論文」または「課題研究」として仕上げます。



授業科目一覧

共通科目	社会健康医学概論	社会健康医学のエキスパートが予防医学や先進医療の視点を取り入れて我が国、特に静岡県の課題をオムニバス方式で掘り下げます。研究論文や事例による演習を積極的に取り入れ卒業後のキャリアに役立つ思考を養い、理解を深めます。	
	公衆衛生危機管理論	県内外の実務経験者を招聘し、危機管理について公衆衛生の視点から自然災害、感染症などに対する適切なアプローチについて事例検討を行います。実際に危機管理パス(計画書)の試案を作成することで実践力を養います。	
	基礎医学講座	医療系以外の学部の卒業者を対象にした、公衆衛生の理解に不可欠な医学に関する基礎知識について学びます。	
	高齢者ケア概論	超高齢社会を迎える日本の高齢者の健康を支える介護予防と介護の取り組みを、自助、共助、公助の観点から学びます。さらに、家族介護者の向き合う問題などについて講義とディスカッションで理解を深めます。	
	公的統計活用法	公的統計の制度、統計調査の仕組み、統計分類、統計の利用法、各種統計(国勢調査、推計人口、人口動態統計、患者調査等)の概要、統計情報の二次利用の方法、公的統計を活用した研究について、系統的に学びます。	
	文献検索法・文献評価法	学術研究における基本的なスキルである文献検索法の基礎を身につけるとともに、疫学・EBM(Evidence-Based Medicine)の知識に基づいて健康・医療情報を検索・吟味し、主体的に活用する方法について、講義と演習を通して学びます。	
	プレゼンテーション・ライティングスキル	研究の成果を効果的に伝えるプレゼンテーションスキルや、精錬された学術論文として仕上げるための技術を身につけることを目的に、講義と実例を用いた演習を行います。	
公衆衛生学科目	疫学	疫学概論	疫学研究の意義を学ぶとともに、必要な理論や基本的知識について講義を行います。さらに、実際の論文を読んで批判的吟味のグループワークを行います。
		疫学研究・臨床研究特論	リサーチクエストの設定から研究仮説の立案、研究デザインの構築、データの収集、データ解析、学術的な結果の解釈まで、疫学研究・臨床研究の方法と技術について演習形式で理解を深めます。
		臨床研究概論	臨床研究を行うために必要な、研究デザイン、主要評価項目、対象者の選出方法、研究倫理、医療統計学など基本的な医学研究方法論について学びます。
		疫学・ゲノム疫学特論	代表的な疫学研究やゲノムコホートを例に、その目的や特徴を理解することで、研究目的に応じた疫学研究・コホートの設定方法やデータの収集・管理、データの解析方法や結果の解釈に至るまで、実例を題材に理解を深めます。
	医療統計学	医療統計学概論	データサイエンスの根幹をなす統計学の基礎(要約尺度の推定、95%信頼区間や検定など)について概説します。また、数値・確率計算に関する演習や医学データ解析で頻用される統計ソフトウェアSASを用いた演習を行います。
		医療統計学特論	具体的な研究事例を用いて、重回帰分析、ポワソン回帰分析、ロジスティック回帰分析、Cox回帰分析について概説します。また、層別解析や経時測定データ解析の基礎について、統計ソフトウェアSASを用いた演習を行います。
		臨床試験解析学	臨床試験(ランダム化比較試験等)の実施方法、ランダム化の意義、試験デザイン、サンプルサイズ計算の方法、中間解析、データ管理及びモニタリング等について講義と演習を通して理解を深めます。
		観察研究解析学	様々な観察研究(コホート研究、ケースコントロール研究等)の解析(研究)デザイン、統計解析の方法(傾向スコア、ROC解析、生存時間解析、経時測定データ解析、クラスター分析)について講義と演習を通して理解を深めます。
	環境健康科学	環境健康科学・産業衛生学概論	自然・社会・労働・作業環境と人間(労働者)の健康の保持・増進を図るために、持続可能な開発目標(SDGs)という環境と労働の未来を目指した、社会健康医学の専門家に求められる基礎知識について学びます。
		環境健康科学・産業衛生学特論	具体的な有害物質の影響と対策、リスクアセスメント、ストレスチェック、職場巡視といった労働環境の改善の手法等について演習を交えながら学びます。
		生活習慣病(生活習慣・遺伝子・環境)	現在の医療の中心課題の一つである生活習慣病について、基本的な病態を理解し、病因の環境因子、遺伝因子等の観点からアプローチして理解を深めます。
	行動医科学・ヘルスコミュニケーション学	健康情報学	疫学やEBMの考え方をともに、医学文献、マスメディア、インターネットによる健康情報の評価を行います。また、自ら健康情報の作成を行う演習も行います。
		ヘルスコミュニケーション概論	健康増進と疾病予防に関する情報伝達を効果的に行うためのコミュニケーション手法の基礎について学びます。特に対象の調査・分析結果に基づく適切なヘルスコミュニケーション戦略について理解を深めます。
		ヘルスコミュニケーション特論	ヘルスコミュニケーション手法やナッジ、ソーシャルマーケティングなど様々な行動科学理論を用いた、健康の維持増進のための研究や実践例について講義と演習を通して学びます。
		行動医科学	行動科学理論に基づいて人間の行動を科学的に理解し、健康増進への行動変容を促すための基本知識について、認知行動療法やヘルスコミュニケーションなどを交えた講義を行います。
		健康医療社会学	健康、病気、医療にまつわる多様な現象の社会的側面を捉える方法と意義について、病気行動、ラベリング、医療化といった健康医療社会学の理論を踏まえた講義とディスカッションを通して学びます。
健康管理・政策学	健康・医療ビッグデータ概論	健診データや診療情報、介護認定データなど、医療や介護を取り巻くビッグデータの解析手法と活用方法の基本的な考え方について系統的に学びます。	
	健康・医療ビッグデータ特論	健康・医療ビッグデータを用いて、データ駆動型の課題設定及びデータの集計・解釈を行う上で必要となる技術の修得を目指します。データを駆使することで、客観的なエビデンスに基づいて政策決定や問題解決に資する能力を養います。	

公衆衛生学科目	健康管理・政策学	健康政策・医療経済学概論	公的医療保険制度など健康に関する我が国の制度や政策を概観しつつ、今後、持続可能な制度として確立するための基本的な政策展開などについて学びます。
		健康政策・医療経済学特論	健康政策上重要なテーマ別に、具体的な政策提言のあり方などについて、トピックスを含め、講義などを通じて学びます。
		社会健康医学倫理概論	社会健康医学領域の研究活動や臨床場面で生じる倫理的課題の背景には、いくつかの価値観が対立している場合が多くあります。本講義では、倫理的判断をする上で必要となる知識と考え方を身につけることを目指します。
		社会健康医学倫理特論	医学研究やその臨床応用には、様々な形で倫理的・法的・社会的課題(Ethical Legal Social Issue: ELSI)が絡んでいます。本講義では、臓器移植、再生医療、健康格差などのトピックスにおける問題の構造を概説し、ELSIの理解を深めます。
ゲノム医学	医科遺伝学概論	遺伝子の構造と機能、細胞遺伝と染色体異常、ヒトゲノムの多型性などの遺伝学の基礎からメンデル遺伝と非メンデル遺伝、腫瘍遺伝、集団遺伝など医科遺伝学に必要な知識を系統的に学びます。	
	医科遺伝学特論	様々な疾患の診断・治療・予防における遺伝医学の有用性について学びます。生活習慣病・がん・自己免疫疾患・小児遺伝性疾患をテーマとした講義から、疾患の遺伝背景・環境因子との関わり・原因遺伝子探索法について幅広い知識を習得します。	
	遺伝カウンセリング	ゲノム情報を臨床に還元する上で欠かすことができない遺伝カウンセリングの基本的な考え方、カウンセリング技法、留意点について、主要な遺伝性疾患を例に病因・病態の理解と、ゲノムと疾患との関わりについて学びます。	
	遺伝カウンセリング実習	遺伝カウンセリングの臨床現場や、それに先だって行われる専門家会議(エキスパートパネル)に参加し、座学で得た知識や技術をより深く修得します。予診の聴取、家系図の作成、電話でのフォローアップなどについての実習も行います。	
聴覚言語学	ゲノム医学(疾患と遺伝子)	医科遺伝学概論及び医科遺伝学特論で学んだ内容を基礎として、代表的な遺伝性疾患の臨床診断、遺伝子診断、疾患特異的な治療法、並びに遺伝子診療の現場における具体的な課題とその解決手法について学びます。	
	聴覚コミュニケーション学概論	音声言語はコミュニケーション手段のみならず、思考、社会性の獲得のために重要です。音声言語発達のためには聴覚が必須です。聴覚と音声言語発達について学習します。	
	聴覚コミュニケーション学特論	音、音声の物理学と人間の耳の構造・機能、さらに中枢での理解、認知のメカニズムについて学びます。また、音の知覚を単語、言語として捉える脳の役割について学びます。	
	小児聴覚評価法	小児の聴力の評価法には電気生理学的手法、行動反応による手法があります。これらの手法を理解し、実際に乳幼児の聴覚反応をどのように捉えるかを体験します。	
	脳の発達と聴覚	乳幼児の聴覚は生後間もなく急速に発達し、3歳半頃が臨界期といわれています。脳の発達の感受期、臨界期を理解し、聴覚をスムーズに発達させるための方策について講義します。併せて、聴覚と視覚の関連について学びます。	
	小児難聴マネジメント	乳幼児の難聴に関して、早期の聴覚補償が重要です。発達に応じた評価と介入法(補聴器、人工内耳)について学びます。	
	老年オーディオロジー	加齢に伴う聴覚システムの変化、難聴と認知症について講義で解説し、補聴器やその他の補聴機器による難聴マネジメントについて講義と演習を通して学習します。	
	フィールド実習	実社会では多くの人々が、集団の健康保持と促進のために日々尽力しています。公衆衛生の現場を肌で感じ、人間の営みと結びついた幅広い公衆衛生学の視点を獲得することを目的に校外実習を行います。	
発展科目	死生学	人の生き死ににまつわる多様な課題を扱う死生学の基本について、臨床死生学の主要トピックに関する講義とディスカッションを通して学びます。	
	社会健康医学における質的研究法	人の持つ価値観や行動原理、所属集団の行動規範などを理解するために有用なアプローチである質的研究法について、量的研究法との違い、主要なデータ収集法と分析法などについて、講義と演習を通して学びます。	
	社会健康医学における混合研究法	混合研究法は量的研究と質的研究を統合させる研究方法論であり、健康科学領域で一般的に用いられます。本講義では、混合研究法の様々な定義を俯瞰し「統合」を理解し、混合研究法を実施するための基礎力を養います。	
	精神保健学概論・心理社会的支援技術論	県内における精神疾患予防対策、精神健康増進施策の立案に当たり、県民に精神保健行動をとってもらうための手法、特に認知行動療法や社会生活技能訓練(SST)の適用方法について講義と演習を通して学びます。	
	医療・ケア組織論	医療や介護等の現場において、疾病予防対策や健康増進施策を継続的かつ効果的に展開するための組織のあり方等について学びます。	
	高齢者ケア特論	要介護高齢者の健康状態は個人差が大きく、原因疾患による特異性も大きいことが特徴です。介護の課題も様々な異なることを理解し、大規模災害下の避難や看取りの問題も視野に入れた介護現場の実情について学びます。	
特別研究	高齢者運動・リハビリテーション論	臨床・地域・ヘルスケア業界・ヘルステック領域などの切り口から、リハビリテーション・運動にかかわるアプローチ手法や産業について学びます。	
	修士論文／課題研究	1年半をかけて社会健康医学領域の研究課題に取り組み、その成果を修士論文または課題研究として仕上げます。本学が世界に誇る研究基盤である大規模ゲノムコホートや医療ビッグデータを活用した研究はもちろんのこと、学生自身が臨床現場で蓄積してきたデータを用いた研究や、新たにデータ収集から始める研究など、様々なアプローチから社会健康医学研究に取り組みます。一人の学生に対し複数の教員が指導を担当することで、幅広い視点から綿密な指導を行います。	

カリキュラムマップ

 必修科目
 選択科目
 自由科目

	1年次				2年次			
	前期		後期		前期		後期	
	前半	後半	前半	後半	前半	後半	前半	後半
共通科目	社会健康医学概論		公衆衛生危機管理論					
	基礎医学講座	高齢者ケア概論	公的統計活用法					
	文献検索法 文献評価法	プレゼンテーション ライティングスキル						
公衆衛生学 科目	疫学	疫学概論 臨床研究概論		疫学研究 臨床研究特論 疫学 ゲノム疫学特論				
	医療統計学	医療統計学概論	医療統計学特論	臨床試験解析学	観察研究解析学			
	環境健康科学	環境健康科学・産業衛生学概論	環境健康科学・ 産業衛生学特論 生活習慣病 (生活習慣・遺伝子・環境)					
	行動医科学・ ヘルスコミュニ ケーション学	ヘルスコミュニ ケーション概論 行動医科学	健康情報学 健康医療社会学	ヘルスコミュニ ケーション特論				
	健康管理・ 政策学	健康・医療 ビッグデータ概論	健康政策・ 医療経済学概論 社会健康医学 倫理概論	健康・医療 ビッグデータ特論 健康政策・ 医療経済学特論	社会健康医学 倫理特論			
ゲノム医学 科目	医科遺伝学概論		医科遺伝学特論 遺伝カウンセリング	ゲノム医学 (疾患と遺伝子)	遺伝カウンセリング 実習			
発展科目	聴覚言語学		聴覚コミュニ ケーション学概論	聴覚コミュニ ケーション学特論	小児聴覚評価法 脳の発達と聴覚	小児聴覚 マネジメント 老年 オーディオロジー		
			社会健康医学に おける質的研究法		フィールド実習 死生物学 高齢者運動・ リハビリテーション論	社会健康医学に おける質的研究法 精神健康学概論 心理社会的支援技術論 医療・ケア組織論 高齢者ケア特論		
特別研究					修士論文			
					課題研究			

課程修了の要件

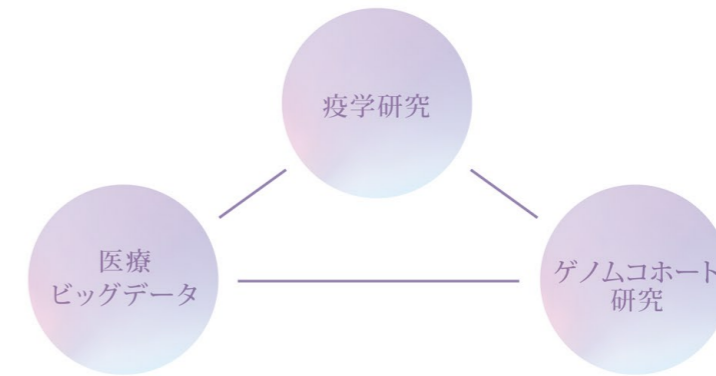
修士論文選択者	必修科目17単位、特別研究(修士論文)8単位、 選択科目17単位以上、合計42単位以上	課題研究選択者	必修科目17単位、特別研究(課題研究)4単位、 選択科目21単位以上、合計42単位以上
---------	--	---------	--

時間割

1年次の時間割 (例)	1年次前期・前半			1年次後期・前半		
	月～木	金	土	月～木	金	土
1時限目 9:00-10:30						
2時限目 10:40-12:10			健康・医療ビッグデータ概論			環境健康科学・産業衛生学特論
3時限目 13:00-14:30		社会健康医学概論	環境健康科学・産業衛生学概論		健康情報学	公的統計活用法
4時限目 14:40-16:10		医科遺伝学概論	疫学概論		公衆衛生危機管理論	健康医療社会学
5時限目 16:20-17:50		臨床研究概論	文献検索法・文献評価法		生活習慣病(生活習慣・遺伝子・環境)	医療統計学特論
6時限目 18:30-20:00		基礎医学講座	医療統計学概論		修士論文/課題研究	

研究の特色

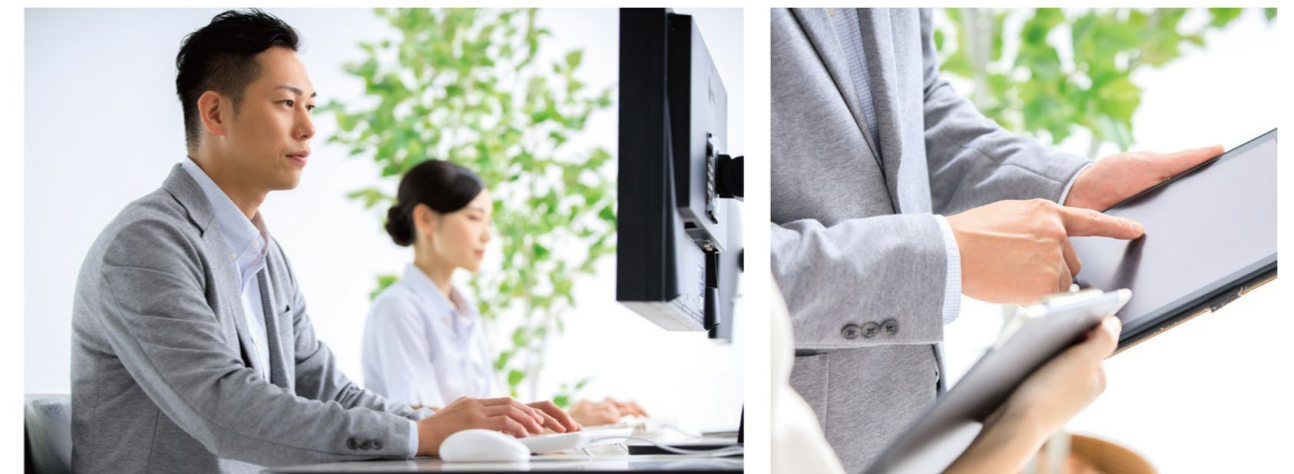
静岡県の様々なリソースを駆使した社会健康医学研究から予防医学の高度化に寄与する最先端の知見を発信しています。



疫学研究は、「集団において健康に関連する状況あるいは事象の分布や規定因子に関する研究」と定義され、社会健康医学の研究において基軸となります。疫学研究は大きく介入研究と観察研究に分類され、このうち介入研究とは、ヒトの健康に関わる因子を制御することで当該因子の影響を明らかにする手法であり、医療においては治療薬の臨床試験などが該当します。一方、観察研究とは、まさしく観察のみを行う研究であり、集団を対象に一時点で集めたデータの解析からリスク因子の分布や病態との相関を調べる横断研究や、長期的な観察データからリスク因子とアウトカムとの関連を解明する縦断研究などが該当します。

静岡社会健康医学大学院大学では、国民健康保険に加入している静岡県民220万人8年分の健診、医療・介護レセプトデータの提供を受け、例えば脳卒中などの循環器疾患や透析導入、皮膚科疾患などの20以上のテーマについてビッグデータを駆使した疫学研究を進めています。このようなデータは国内では比類なく、本学から特色ある研究成果を発信するための基盤情報となっています。健診・レセプトデータの解析は、既存のデータを利用するため即時性が高く、規模も膨大であるため希な疾患や治療・処方についても調べられるなどの利点がある反面、別の目的で集められたデータの2次解析であるため、臨床情報が限られるなどの限界もあります。そこで静岡県下で1万人規模の地域住民対象のコホート(集団を長期間追跡する研究)を立ち上げ、診療科の枠を超えて多彩な臨床情報を収集することで、認知症や高齢化など近未来の我が国が直面する問題に果敢に取り組む疫学研究もスタートしました。ヒトの体質を決定づけるゲノムの網羅的解析や、末梢血成分を最新の技術で詳細に分析するオミックス解析も取り入れることで、これまでに解明することができなかった病因やリスク因子の解明にもチャレンジしています。

本学の大学院生は、これらの研究基盤を存分に活用することができますので、在学中に先導的な研究成果を学会や学術論文として発表することもできます。また、京都大学医学研究科との全面的な連携の下、世界的に有名な大規模長期縦断研究である「ながはまコホート」のデータも研究活用することができます。このような極めて貴重な研究基盤を大学院の特別研究(修士論文・課題研究)に活用できることは、静岡社会健康医学大学院大学が誇る特色です。



主な教員紹介



教授/学長 **宮地 良樹** Yoshiki Miyachi

京都大学名誉教授(皮膚科学)

〔主な担当授業科目〕
社会健康医学概論



教授/研究科長 **田原 康玄** Yasuharu Tabara

京都大学医学研究科 特定教授

〔主な担当授業科目〕
医科遺伝学概論・特論、疫学・ゲノム疫学特論
〔研究指導のテーマ〕
生活習慣病・循環器疾患・フレイル・認知症のリスク因子の解明と予防・介入方法に関するゲノム・疫学研究



教授 **高木 明** Akira Takagi

元静岡県立総合病院副院長

〔主な担当授業科目〕
聴覚コミュニケーション学概論・特論、小児聴覚評価法
〔研究指導のテーマ〕
新生児聴覚スクリーニングにより発見された難聴児の早期の人工内耳手術から引き続き適切な介入による音声言語発達の変容に関する研究



教授 **菅原 照** Akira Sugawara

静岡県立総合病院 副院長・腎臓内科部長

〔主な担当授業科目〕
基礎医学講座、生活習慣病(生活習慣・遺伝子・環境)
〔研究指導のテーマ〕
慢性腎臓病(CKD)などの生活習慣病の早期発見、早期診断、早期治療介入の推進が日本人の健康問題の予防と健康寿命の延長に関連することについての研究



教授 **臼井 健** Takeshi Usui

静岡県立総合病院 遺伝診療科部長

〔主な担当授業科目〕
遺伝カウンセリング、ゲノム医学(疾患と遺伝子)
〔研究指導のテーマ〕
精密医療実現のためのゲノム医療の推進及び遺伝カウンセリングを含む遺伝診療の果たす役割に関する研究



教授 **小島原 典子** Noriko Kojimahara

静岡県立総合病院リサーチサポートセンター 上席研究員

〔主な担当授業科目〕
疫学概論、臨床研究概論
〔研究指導のテーマ〕
電磁波、放射線の健康影響に関する疫学研究診療ガイドラインのためのシステマティックレビュー臨床疫学を用いた予防研究や介入研究



教授 **森 潔** Kiyoshi Mori

静岡県立総合病院 腎臓内科・腎臓研究科部長

〔主な担当授業科目〕
基礎医学講座、ゲノム医学(疾患と遺伝子)
〔研究指導のテーマ〕
高齢者の健康長寿延伸を目的とした、腎疾患の投薬内容、医療費、疾病重症化リスクに関する研究



教授 **栗山 長門** Nagato Kuriyama

京都府立医科大学大学院医学研究科 准教授

〔主な担当授業科目〕
健康・医療ビッグデータ概論、健康政策・医療経済学概論
〔研究指導のテーマ〕
長寿・認知症・がんを中心とした予防医学に関する研究、社会における健康リスクと関連要因の研究、コホート調査に関する研究



教授 **木下 和生** Kazuo Kinoshita

元滋賀県立総合病院研究所 専門研究員

〔主な担当授業科目〕
医科遺伝学概論・特論
〔研究指導のテーマ〕
抗体遺伝子やがん関連遺伝子の変化を惹起する酵素AIDの遺伝子多型と、アレルギー免疫疾患及び悪性腫瘍の発症頻度との関連を調査する研究



教授 **山崎 浩司** Hiroshi Yamazaki

信州大学医学部保健学科 准教授

〔主な担当授業科目〕
健康医療社会学、死生学
〔研究指導のテーマ〕
看取り・死別やグリーフに関する死生学/医療社会学的研究、質的研究法(特に修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ:M-GTA)を活用した研究



准教授 **天笠 崇** Takashi Amagasa

代々木病院精神科科長

〔主な担当授業科目〕
精神保健学概論・心理社会的支援技術論
〔研究指導のテーマ〕
労働ストレス要因と精神疾患、職場のメンタルヘルス対策、社会生活スキルトレーニングを始めた心理社会的支援による精神健康の改善に関する研究



准教授 **森 寛子** Hiroko Mori

京都大学大学院医学研究科健康情報学 研究員

〔主な担当授業科目〕
高齢者ケア概論・特論
〔研究指導のテーマ〕
在宅介護者のQOL、質的研究法、および量的研究法による少数集団の体験、価値観の探索に関する研究



准教授 **中谷 英仁** Eiji Nakatani

静岡県立総合病院リサーチサポートセンター 統計解析室長

〔主な担当授業科目〕
医療統計学概論・特論、健康・医療ビッグデータ特論
〔研究指導のテーマ〕
医療に関する介入、観察研究の統計学的手法及び解析、疾患の発症・悪化及び死亡に関する予測因子探索及び予測モデル構築に関する研究



准教授 **藤本 修平** Shuhei Fujimoto

株式会社まあいヘルスケア 代表取締役

〔主な担当授業科目〕
プレゼンテーション・ライティングスキル、高齢者運動・リハビリテーション論
〔研究指導のテーマ〕
リハビリテーション領域の介入研究・大規模データ分析、リハ職種の診療ガイドライン活用・Evidence-based practiceに関する研究



講師 **Fehérvári Tamás Dávid**

フェヘルヴァーリ タマーシュ ダービドク

静岡県立総合病院リサーチサポートセンター 研究員

〔主な担当授業科目〕
脳の発達と聴覚



講師 **八田 太一** Taichi Hatta

京都大学IPS細胞研究所 特定助教

〔主な担当授業科目〕
社会健康医学における混合研究法
〔研究指導のテーマ〕
混合研究法を用いたインフォームド・コンセントにおける医療者・患者関係の分析をはじめ、患者の自発性や意思決定場面に関わる研究



講師 **佐藤 洋子** Yoko Sato

静岡県立総合病院リサーチサポートセンター 研究員

〔主な担当授業科目〕
医療統計学概論・特論、健康・医療ビッグデータ特論
〔研究指導のテーマ〕
観察研究における統計学的手法及び解析、希少難治性疾患におけるプロファイル解析及び診断/予後モデルの構築・評価に関する研究



概要

研究科・専攻：社会健康医学研究科 社会健康医学専攻

募集人員：一次募集・・・10名
二次募集・・・若干名 ※一次募集で募集人員に達した場合は、二次募集は行いません。

修業年限：2年(修士課程)

取得学位：修士(社会健康医学) Master of Public Health (MPH)

試験科目

一般入試：書類選考(小論文) 筆記試験(英語) 面接選考
推薦入試：書類選考(小論文)※ 面接選考
※受験者が過去に執筆した英語論文や研究発表に基づく英語力判定に関する評価を含みます。

入試スケジュール

	一次募集(一般・推薦共通)	二次募集(一般・推薦共通)
出願期間：	2020年12月21日(月)～2021年1月8日(金)	2021年2月17日(水)～2021年2月24日(水)
試験日程：	2021年1月24日(日)	2021年3月7日(日)
合格発表：	2021年2月3日(水)	2021年3月18日(木)

※詳細は学生募集要項をご確認ください。

学費

	入学金	授業料	初年度学費
静岡県内の方	141,000円	535,800円	676,800円
静岡県外の方	366,600円	535,800円	902,400円

奨学金制度

種類：貸与型(無利子)
応募要件：大学の学生であること
貸与額：60万円(年額)
貸与期間：2年

下記の条件を全て満たした場合は、返済を免除します。

- ①修士(社会健康医学)の学位を取得すること
- ②修了後、県内の医療、介護、保健に関する業務に5年間従事すること
- ③職場や地域において本学で学んだ成果を還元すること(毎年度、活動報告書を提出していただきます。)

長期履修制度(修士課程を3年または4年で修了する制度)

職業を有している等の事情により、標準修業年限(2年)を超えて計画的に教育課程を履修し修了することを希望する場合に、最大4年間まで修業年限を延長できる制度を設けています。

大学院大学説明会・個別相談

入学を希望される方を対象にWeb等による相談会を実施予定のほか、個別相談も受け付けております。詳細は本学のホームページをご覧ください。(https://s-sph.jp)

公衆衛生大学院で社会健康医学を学び、Master of Public Health(MPH)を修得した医師の声を紹介します。

消化器内科

日々の診療で湧いてくる臨床疑問を、科学的に検討する方法を学ぶ機会がなかったため、研究活動は常に不安でした。SPHで研究デザインや医療統計、EBM、政策などの必須知識を学べたことは、その後の診療・研究にある程度の確信を持つ根拠となりました。またそのような知識を必要としている同僚の人に共有できることも大変有意義に感じています。

循環器内科

SPHで学んだ知識は、手術のように目に見える形で治す技能とは異なりますが、より良い選択肢を選択できるようになる、あるいは診療の現場で遭遇する不確実性との向き合い方を教えてくれるものであり、手術などの技能に匹敵する重要なものを学んだのだと思っています。

総合診療・感染症

エビデンスの根拠となる臨床研究において、医師の視点は欠かせません。SPHにおいて臨床研究の実施に必要な知識を学ぶことで、卒後も研究に関わって結果を世に出し医学に貢献していけるということは、医師にとって大きな魅力だと思います。

循環器内科

私が医師10年目にして改めてSPHで学ぼうと思った理由は、「自分が疑問に思うことを具体的に解決可能な形に組み立てる手法を身につけたかったから」です。SPHでは文献検索/評価法、臨床統計学、疫学、研究立案の実践など様々な事を学ぶことができます。これらは臨床医をしているだけでは身につかないことばかりです。

総合診療・感染症

臨床に従事している医師は、臨床の現場で“疑問に思っていること”を解決する手段をほとんど持ち合わせていません。また、その手法を学ぶ環境が日本では整っていません。実際に、SPHで臨床疑問を定式化し、研究という手法で解決していく経験をする、臨床能力が格段に上がります。また論文も深く読み込むことができ、エビデンスの臨床への適応にも幅を広げることができます。より良い臨床医になる手段の一つとして、“SPHへの進学”は自信を持ってお勧めできます。

精神科・行政

臨床医として働いていると、近視眼的に日々の目の前の患者さんの治療のことだけに目が行きがちになりますが、長年臨床をしていくと、どんなに治療をしても解決できないことが見えてきます。結局のところ、治療だけでは解決できない社会の問題、医療制度の問題などが患者さんの医療や予後、生活に影響を与えているということに気付くのですが、その解決法や、そういった問題に気付きを与えてくれるのがMPHだと思います。医療者としても、個々の患者を治療するだけでなく、社会システムを知り、地域や社会全体を良くするという視点が重要であり、その視点を持って日々の医療を行うことも重要であると考えます。

よくある質問 - F A Q -

どのような職種の人が進学できますか？ 進学するには医療関係の資格が必要ですか？

医師、歯科医師、薬剤師、看護師、保健師、言語聴覚士、管理栄養士、社会福祉士など医療・保健・福祉の現場で活躍されている方はもちろんのこと、社会健康医学に関心を持たれているあらゆる分野の出身者を歓迎します。これまでに社会健康医学に触れたことが無い方にも学んで頂けるよう、講義や研究指導では十分に配慮します。

卒業後、どのような職種で活躍され、また大学院で修得した知識や技術を現場でどのように活用できますか？

医療・保健・福祉に直接関わる職業はもちろんのこと、リサーチコーディネーターなどの関連領域の専門職、企業（製薬企業、バイオ系企業、データサイエンス系企業等）、官公庁など多彩なフィールドで活躍することが期待されます。情報処理技術が飛躍的に進み、人々の健康に関連した様々なデータが蓄積され活用できる社会になりました。そのような現代において、大規模かつ多様なデータの分析から正しい知見を導き出し、その知見に基づいて実行可能な解決策を社会に実装する能力や、溢れる情報の真偽を見抜く力は様々な業種において必要とされています。

社会健康医学を学ぶことで、地域の健康づくりにどのような貢献ができるのでしょうか？

社会健康医学は、個人ではなく人集団を対象に様々な角度からデータを分析することで潜在的な健康課題を発掘するとともに、その実行可能な解決策の策定・社会実装と効果検証に資する学問です。地域の健康づくりという観点では、自治体や企業等で保有する医療・保健データを適切な方法で分析し、その結果を学術的に正しく解釈することで、個々の集団に適した保健対策を行うことができる人材の育成を目指しています。

博士課程はありますか？

開学時は修士課程のみですが、将来的に社会健康医学やゲノム医学領域の研究者養成を主眼においた博士課程の設置を検討しています。なお、本学には大規模地域コホートやゲノムコホート、全県レベルの国民健康保険データベースなど最先端の研究を行うためのリソースが整っていますので、修士課程在学中に博士課程レベルの学術成果を挙げることも可能です。



よくある質問 - F A Q -

医師のように6年の教育課程を修了した人が社会健康医学の修士課程に進学するメリットはありますか？

医師は、診療経験の蓄積や専門的な手技の習熟による診断・治療スキルの向上、基礎研究や臨床研究を通じた疾患メカニズムの解明や新しい治療法の開発など、それぞれに志向を持っています。いずれの場合であっても、「医師は病院で患者を診る」、「研究は実験室で動物を扱う」と認識されていた時代には、医師が活躍できる場面は「病院の中」に限られていました。しかし、今や人集団を対象に診療や予防に役立つエビデンスをつくる疫学研究や臨床研究が広く行われるようになり、医師が活躍できる場面が「病院の外」にも拡大しています。また、そういった研究の成果を学術論文として発表し、学位論文とすることも珍しくなくなりました。医師にとって臨床業務が大切なことは無論ですが、地域の人々の健康やQuality of Lifeを高めていく取り組みにおいても、広く活躍するようになっています。さまざまな志向を持つ医師のうち、このような領域に関心を持つ方にとって、社会健康医学（公衆衛生）大学院は、医学部での教育内容を大きく超えた専門職として必要な知識や技術を学ぶ場を提供します。

欧米では、社会健康医学を専門的に学ぶ課程としてSchool of Public Health (SPH)が米国のJohns Hopkins大学に初めて設置され（1916年）、その規模はいまや教官数500名、学生数2,650名となっています。米国では他にもハーバード大学を含め67校以上でSPHが設置され、医学部（School of Medicine）に匹敵する規模となりました。SPHの修士課程（Master of Public Health: MPH）は、一般的な4年生大学に続く2年課程（アカデミック・ディグリー）ではなく、専門家向けの独立した教育課程（プロフェッショナル・ディグリー）として位置づけられています。したがって臨床経験を持つ医師であっても、MPHプログラムを学ぶことで臨床データをより正確に読み解くことができるようになり、新たに探究すべき課題を自ら設定し、その解を得るために必要なデータを正しく収集・分析・解釈できるようになるなど、ご自身の学識をさらに高めることに繋がります。近年、我が国でもMPHの重要性が広く認識されるようになり、MPHを取得できる大学院は全国で18校に上ります。

なお、国内で初めてMPH養成課程を設置した京都大学大学院医学研究科社会健康医学専攻においても、入学者の30%は医師・歯科医師であり、MPHの学位を取得した後は、臨床はもとより、行政や企業などで活躍されています。

短大卒や専門学校卒でも進学可能でしょうか？

短大卒や専門学校卒の方でも、出願資格審査で大学卒業と同等の学力があると認められれば出願可能です（※）。出願資格審査を受ける場合は、出願前の所定の期間に職務経歴や研究歴に関する資料等を提出していただくことになります。詳細は学生募集要項をご参照ください。（※本学入学時に22歳以上となる方に限ります。）

遠隔地からでも通学できますか？

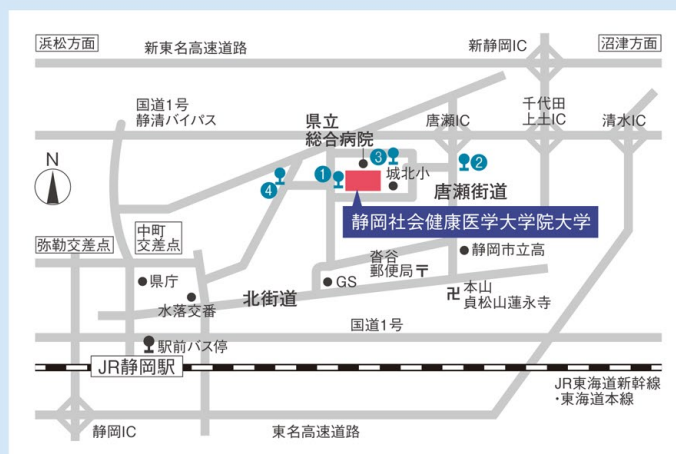
本学は静岡市中心部に位置し、自動車でのアクセスも良いため、県内各地から通学することが可能です（学内の無料駐車場を利用可能）。県外在住の方でも、新幹線やその他の公共交通機関で週末だけ通学することが可能です。



静岡社会健康医学大学院大学

静岡市葵区北安東4丁目27番2号(静岡県立総合病院隣接)

アクセス



公共交通機関をご利用の場合

JR静岡駅よりバスで約25分

静岡駅北口 5番乗り場

- ① 上足洗線「北安東四丁目」下車(徒歩約1分)
- ② 唐瀬線「県立総合病院入口」下車(徒歩約7分)

静岡駅北口 10番乗り場

- ③ 県立病院高松線「県立総合病院」下車(徒歩約5分)

静岡駅北口 16番乗り場

- ④ 大浜麻機線「北安東三丁目」下車(徒歩約5分)

車をご利用の場合

国道1号静岡バイパス「唐瀬IC」から約3分

新東名高速道路「新静岡IC」から約15分

東名高速道路「清水IC」から約20分 / 「静岡IC」から約25分

※学生は、大学敷地内に駐車可能です。(無料)

事務局

静岡県庁 (〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6)

静岡県健康福祉部健康福祉政策課大学設置班(静岡県庁西館3階)

TEL. 054-221-3351 FAX. 054-221-3264

E-MAIL. syakaikenkou@pref.shizuoka.lg.jp

<https://s-sph.jp>

スマートフォンは
こちらから▶

静岡社会健康医学大学院大学

検索

